

基本目標6 環境教育を通じた環境の人づくり

本県の豊かな自然環境を将来世代へ継承するとともに、限りある資源を有効に活用し、持続可能な社会を形成していくためには、すべての県民が環境との関わりについての正しい認識と理解を深め、日常生活や事業活動において自らが率先して環境に配慮した行動を実践していくことが不可欠です。

このため、本県では、本県の環境行政施策の基本計画である「第3次山形県環境計画」において、環境学習・環境保全活動への参加者数を令和2年度までに年間16万7千人とすることを目標に掲げ、やまがた緑環境税を活用した県民参加の森づくり活動の推進や環境学習支援団体の認定（環境の保全に関する情報の提供や、体験の機会の提供等を通じて、県民の環境学習を支援している民間団体を知事が認定するもの）、環境科学研究センターの利用促進などに取り組んでいます。

こうした取組みにより、環境学習・環境保全活動への参加者数は、平成29年度に16万7千人となり目標を前倒して達成し、平成30年度には17万4千人、令和元年度には17万6千人となりました。

しかし、令和2年度には新型コロナウイルス感染拡大の影響により、県内でもイベントや環境教室、施設見学受入れ等の中止や規模縮小が相次いだことを受け、環境学習・環境保全活動への参加者数は前年度までに比べて大幅に減少し、8万1千人にとどまりました。

1 山形県環境教育行動計画

- 「第3次山形県環境計画」の分野別計画として「山形県環境教育行動計画」を平成25年3月に策定し、学校、地域等幅広い場における環境教育や、環境保全の意欲の増進などに取り組んでいます。
- 平成30年3月には、施策の進捗状況や、平成29年3月に中間見直しを行った「第3次山形県環境計画」の内容を踏まえ、中間見直しを行っています。

2 環境教育の推進

(1) 山形県環境科学研究センターの取組み

- 本県における環境教育の拠点施設である環境科学研究センターでは、県民による自主的で活発な環境保全活動が展開されるよう、環境教室の開催や教材の貸し出しを行っているほか、環境アドバイザー等の派遣、水生生物調査への参加呼びかけなどを通じ、環境意識の醸成を図っています。また、県内で行われる環境関連イベントなど環境に関する情報について、ホームページやSNSで発信しています。
- 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が流行したため、例年実施している施設の一般公開イベント「親子で楽しむ環境科学体験デー」を中止する一方で、環境学習に対する新たな支援として環境教室の動画配信を行いました。

ア 環境相談の受付・教材の貸出等

環境教育に関する相談窓口の設置、環境情報・自然環境棟における環境関連の図書やDVD等の展示・貸出、体験学習の支援など

イ 環境教室の開催

学校、団体、放課後子ども教室・放課後児童クラブなどを対象とした所内教室・出前講座の実施

【令和2年度実績】 97回 (2,600名参加)
 《講座例》リサイクル工作、水生生物調査、水質調査



環境教室の様子

ウ 環境アドバイザー等の派遣

環境やエネルギーに関する専門的な知見を有する環境アドバイザーや地球温暖化防止活動推進員の派遣

【令和2年度実績】 24回 (712名参加)

《講座例》地球温暖化、食品ロス、リサイクル、田んぼの生き物、里山のあるべき姿

エ 親子で楽しむ環境科学体験デー

環境月間（6月）推進事業の一環として、環境への関心を深めるとともに、環境科学研究センターの業務や施設を県民に知っていただくことを目的に平成15年度から開催

【令和2年度実績】 新型コロナウイルス感染拡大のため開催中止

(2) 山形県環境学習支援団体の認定

- 環境の保全に関する情報の提供や体験機会の提供などを通して、県民の皆さんの環境学習を支援している民間団体を認定し、広く紹介することにより環境学習の機会の拡大を図り、環境保全の意欲増進を図ることを目的として、平成16年度から認定を行っています。令和2年度末現在44団体を認定し、県ホームページ等において各認定団体の活動について紹介しています。

令和2年度新規認定団体	環境学習の概要
合同会社とびしま（酒田市）	飛島の豊かな自然環境を舞台に、海ごみをテーマとして環境問題を学び、チームによる課題解決力や柔軟な発想力を養う。
特定非営利活動法人パートナーシップオフィス（酒田市）	海洋プラスチックごみ問題に係る学習会（年齢に応じグループワークやワークショップのプログラム有り）や下線や海岸等におけるクリーンアップ活動を通し海ごみ問題を学ぶ。
リコージャパン株式会社販売事業本部山形支社（山形市）	SDGsについての講座の開催や講師派遣のほか、SDGs経営の実践を体験することができるオフィスの見学により、より実践的な理解を深める。

(3) 環境地域づくり担い手連携推進セミナー

- 環境学習支援団体のほか、環境学習・環境教育に関わる方々が学び交流する場として、「環境地域づくり担い手連携推進セミナー」を開催しました。

【令和2年度実績】

36名参加（うち15名がZ o o mでの参加）

講演：SDGs入門

ワークショップ：SDGs×環境学習のプログラムを考える

講師・ファシリテーター：東北環境パートナーシップオフィス 鈴木美紀子氏

- セミナー開催に合わせ、令和2年度に新たに環境学習支援団体に認定された3団体に対する認定証交付式を行いました。



SDGsの理解を深め、活動への取り入れを検討

(5) 「やまがた木育」の取組み

- 平成30年3月に「やまがた木育推進方針」を策定し、「森や自然の大切さを学び、森や木の文化を見つめ直し、森や自然の恵みに感謝し、自然との共生の文化を理解・共感できる豊かな心を育み、森との絆を深め、暮らしの中に木を活かしていくこと」を「やまがた木育」と決めました。
- 令和2年度は、未就学児向け「木育絵本」のDVD、小学校低学年向け「木育ブック」と「木育クラフト」、小学校高学年向け副教材「やまがたの森林」とポケット版教材「森のたんけん手帳」を配布しました。
また、「やまがた木育」の指導者を養成するため、やまがた木育人材養成講座（スタートアップ、スキルアップ）を開催しました。
- また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により屋外活動が減少した幼稚園・保育園児及び小中学生を対象に、各学校等から県立自然博物館への日帰りバスツアーを実施しました。62団体、2,025名の利用があり、自然体験学習の機会の創出に加え、開園30周年を迎える同園の利用拡大が図られました。





やまがた木育人材養成講座【スタートアップ】



県立自然博物館で自然に親しむ園児たち

3 環境保全活動の顕彰

- 県では、地球環境又は地域環境の保全と創造に功績のあった方を顕彰する「環境やまがた大賞」事業を実施しています。
- 令和2年度は、次の団体が受賞しました。

受賞区分及び受賞者	功 績 概 要
【大賞】 特定非営利活動法人 ひらた里山の会	竹林間伐や自然観察路整備等を学校と協働で実施することにより、里山の役割、自然環境保護の大切さ、協働作業による成果などを体験し学び、愛郷心を育むことにつなげています。 
【大賞】 西山の史跡を見守る会	葉山にある農業史跡である「嘉永堰」、「昭和堰」の連絡道の整備も兼ねた刈払いを毎年行い、貴重な農業史跡の保全に努めています。 
【奨励賞】 福宮チョウセンアカシジミを守る会	絶滅危惧種であり、県指定天然記念物でもあるチョウセンアカシジミの生息調査や保護活動、山道整備や倒木伐採などの環境保全活動を行っています。
【奨励賞】 米沢市立関小学校	吾妻山の清掃と登山を組み合わせた「吾妻清掃登山」を昭和42年度から令和2年度まで、学校・児童・PTA・地域が一体となって実施してきました。